法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-16

【図書紹介】『現代世界における意思決定と合理性』キース・E・スタノヴィッチ著（木島泰三訳、太田出版、二〇一七年）

HASEGAWA, Etsuhiro / 長谷川, 悦宏

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY / 法政哲学
(巻 / Volume)
15
(開始ページ / Start Page)
72
(終了ページ / End Page)
72
(発行年 / Year)
2019-03-30

【図書紹介】

『現代世界における意思決定と合理性』

キース・E・スタノヴィッチ著（木島泰三訳、太田出版、二〇一七年）

長谷川　悦宏

本書はKeith E. Stanovich, *Decision Making and Rationality in the Modern World*, Oxford University Press, 2010の翻訳書である。著者は高名な認知心理学者であり、本書は心理学の学生向け教科書として著されたものである。従って元来哲学研究者は、本書の読者層として想定されてはいない。だが本書がその主題として取り扱う「合理性」概念及びそれを巡る論争は、著者が指摘しているように、「人間本性（human nature）のモデルそのもの」に深く関係するものであり、哲学研究者もまた無関心ではいられない主題である。また本書の議論は厳密な意味での認知心理学に限定されておらず、哲学を含む関連する諸分野への言及が認められる。

本書は全六章から構成されている。第一章「合理的な思考と行動」は基本的な概念や全体の構成など、本書の序章にあたる。第二章「意思決定」及び第三章「判断」では、我々の大半（但し我々全てではない、この点は著者の立場と深くかかわる）が、如何に行為や信念において不合理であるかが、心理学において蓄積されてきた豊富な実例を用いて説得的に論じられる。第四章「わたしたちの意思決定はどれほど拙いのか？」においては「改善主義」（我々の現状は不合理かもしれないが、我々はより合理的存在となりうるとする立場）と「パングロス主義」（我々の現状は一見不合理に見えるかもしれないが、実は我々は合理的存在であるとする立場）という対立する立場が明快に論じられる。第五章「判断と意思決定の合理性にかんする論争の解決」では、著者の立場である「二重過程理論」、人間の心を二つのタイプ、進化の過程で生じたと考えられる形式的合理性に従ってはいないが日常の多くの場面において合理的であると見做し得るタイプと合理的規範に適ったタイプ、によって捉えこれらの対立する立場を調停する立場、が論じられる。第六章「メタ合理性」では「道具的合理性」を超えたより広い合理性が論じられる。

本書は、翻訳者木島泰三氏が著者の意を汲み、積極的に「あなた（you）」を主語として用いている点に特徴がある。このことにより読者は、「合理性」概念に関する基礎的素養を自然な形で習得できるようになっている。「合理性」概念を巡る諸問題への関心が高まっている今日、本書は誠に時宜を得た優れた手引書と言えよう。